

チャレンジ！！オープンガバナンス 2019 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル	自治体名
	3_1/2_1	人口減少に直面する地方都市に若者を呼び込む対策	山形県 鶴岡市
アイデア名(注2) (公開)	「ペーパードライバーきょうしゅう(郷愁・教習)の旅」		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2019 サイトの中に記載してあるエントリー自治体(連合)が掲げる地域課題を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームが応募されるアイデアにつけるものです。アイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報

チーム名(公開)	鶴岡再発見！プロジェクト		
チーム属性(公開)	<input type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input checked="" type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム		
メンバー数(公開)	8名		
代表者情報	氏名(公開)	泉川 由起	
メンバー情報		星野 萌香	

(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2019_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2019 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2019@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「3. 自治体との連携」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、課題解決のために、何をやる社会的なサービス（活動）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。2 ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題>

人口減少に直面する鶴岡に若者に若者を呼び込む。

鶴岡市は年々、高校卒業後の就職、進学によって高校卒業後から 20 歳代の若者が大幅な転出超過となっている。加えて、有名観光地と比べて若者の旅行者の少なさや認知度の低さも問題視されている。

<解決アイデアの内容>

プランのタイトル：「パーパードライバーきょうしゅう（郷愁・教習）の旅」

【目標】

本プランのゴールは、就職を控えた大学生の、パーパードライバー教習への需要と、観光都市としての鶴岡市のポテンシャルを掛け合わせて、鶴岡市に若者を呼び込むことです。（下図参照）

【具体的施策】

パーパードライバーの大学生を主な対象に「教習」と「観光」を組み合わせた旅行プランを提供します。また、大学生が手軽に利用できるよう、観光地の情報収集・プラン作成を行う新たなアプリ「つるおか旅につき（通称：「つるたび」）」を開発します。「つるたび」は、自動車教習所や宿泊施設、観光名所の LINE 公式アカウント情報を集約しており、各所に対し、容易に予約申し込みが可能となるほか、鶴岡市役所の協力により、一部施設の利用料金に対し、割引が適用されます。さらに、「つるたび」を通して自治体・住民・店舗・観光客同士の情報交換が出来る新たなコミュニティをすることにより、関係人口・交流人口を増加させることを目指します。

また、観光以外に鶴岡市には特有の歴史・文化・建築物・最先端のベンチャー企業が存在するため、鶴岡市でしか体験できない「学び」のプランを用意する



ことが可能です。このプランによって、大学生が将来、就職に役立つ知識を遊びながら気軽に学ぶことができるほか、市民と観光客のつながりが築かれ、それにより市は長期的な支援者（ファン）を獲得することができます。

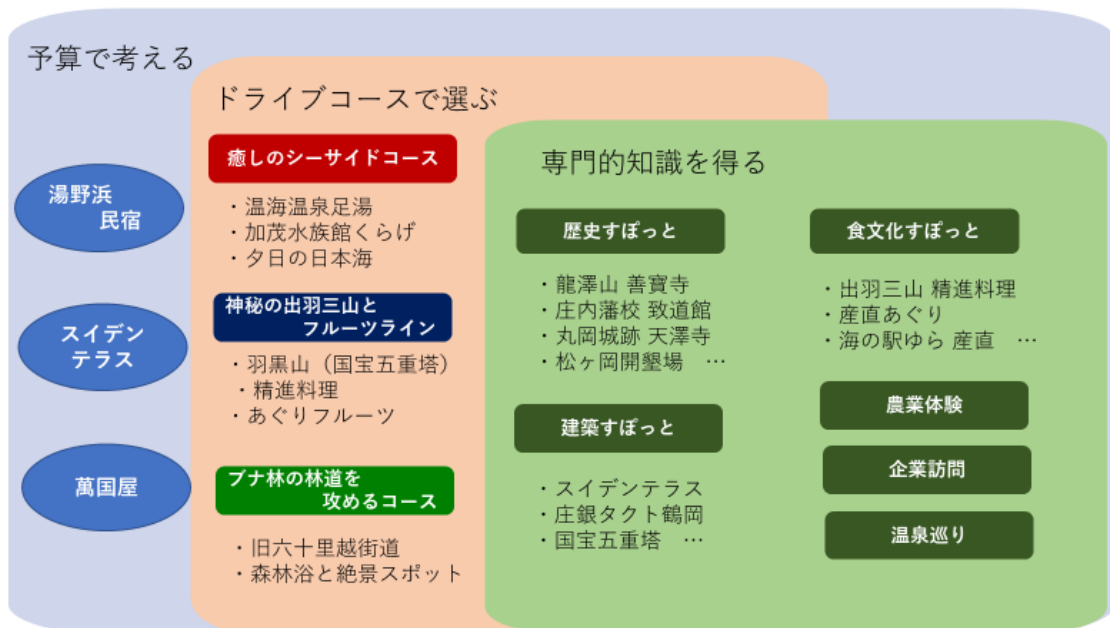
鶴岡市にとってのメリット	<ul style="list-style-type: none">・若者の呼び込み→鶴岡市の支援者（ファン）の獲得・観光客の増加→産業振興、市のブランド確立・「つるたび」による情報の蓄積
ユーザー（大学生）にとってのメリット	<ul style="list-style-type: none">・鶴岡市役所による観光施設のバックヤード見学や割引・教習と観光(学び)による「ここでしかできない体験」・就職後を見据えたパーパードライバーの克服・「つるたび」による旅行プラン作成、口コミの活用・LINE 公式アカウントによる簡単な予約

【ユーザーが本プランを利用する際の流れ】

- ① ポスターなどの広告等により関心を持ったユーザーが、新アプリ「つるたび」（詳細は後述）をもとにペーパードライバー講習の日程 + 観光プランを計画します。（※モデルプランは下記図を参照）
- ② 「つるおか旅につき」から各施設の LINE 公式アカウントに移動し、予約します。
- ③ 鶴岡市に訪れ、ツアーに参加します。
- ④ ツアーに参加後は、「つるたび」に評価・情報を書き込んで旅の記録を作成します。
＝その記録をみて、次年度以降の利用者が体験者による生の情報を得ます。

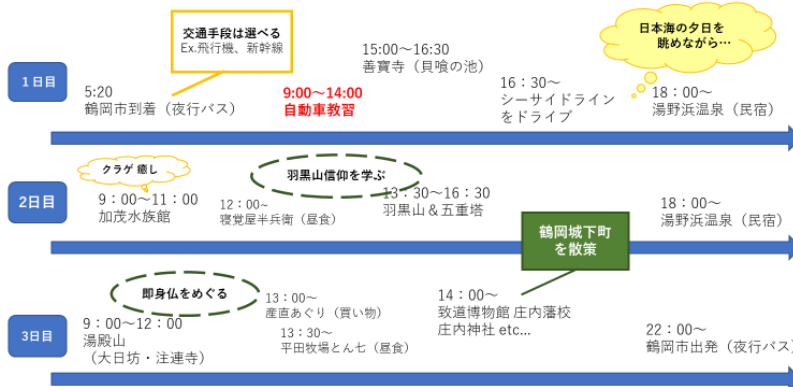
【旅行プラン例】

ユーザーは、1 日目にペーパードライバー教習を行い、2 日目以降はレンタカーを利用して、それぞれ希望する予算または興味のある対象に合わせてプランを自由に組み立て、割引を活用しながら観光します。



→下調べなしでも安心！「せっかち」「ゆったり」「しっかり」など、

ユーザーの性格・希望に合わせた旅行プラン自動作成機能も搭載



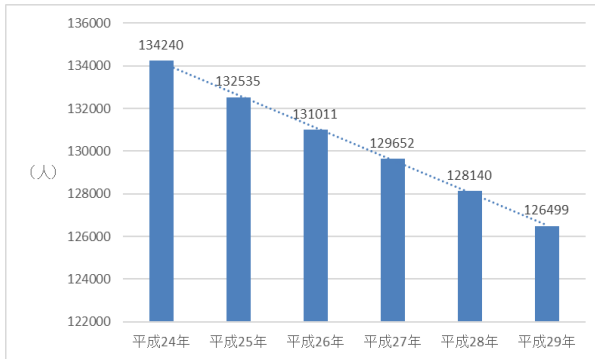
#歴史
#癒されたい
#自然
#低予算
#しっかり



(2) アイデアの理由（公開）

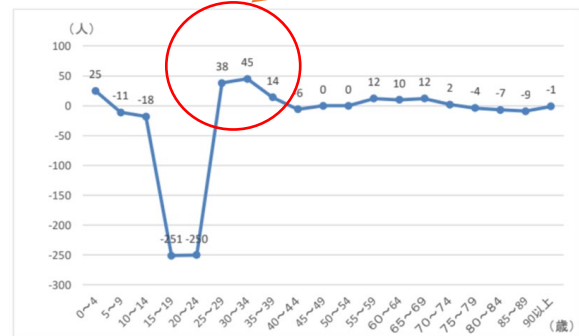
このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの資料や関連の計画、既存の施策などの定性データのことを総称します。データは出所を明らかにしてください。

鶴岡市の人口減少については以下の図からわかる通り、現在は年間に約 1000 人ずつ減少しています。（図 1）そして同時に年齢別の減少をみると、20 代の減少が多く、進学のため都市部へと行っていることが考えられます。（図 2）人口減少に歯止めをかけるためには社会人となる 25～35 歳をターゲットに転入者を増加させることが必要です。県外出身の転入者をいかに増やすかが課題です。



（図 1）総人口の推移

出所：「鶴岡市役所統計データ」



（図 2）県外転入—県外転出の状況(平成 30 年度)

出所：「本市における人口推移及び推計」（鶴岡市市民課資料）

課題解決のために私たちは、社会人になる前に鶴岡市に興味を持たせる必要があると考えプランを提案します。このプランを鶴岡市で行う理由は 3 つあります。

（1）走りやすい道路がある！

私たちがインターシップへ参加した際、一車線の道路がほとんどで、道幅が広く、視界が開けており、安心して走りやすいと感じました。また、走りやすいことは、現地の方も話していました。インスタ映える風景もあり退屈しません。つまりは、運転初心者にとっても、安全に走行でき、ペーパードライバー講習には最適な環境です。

（2）魅力のある観光地同士が適度に離れている！

鶴岡市は市町村合併により、面積が東北地方で 1 位、全国で 7 位と広大です。そのため、観光地同士の距離が離れており、それぞれの場所へ向かうための交通手段は便が悪く、自動車での移動が必要になります。ペーパードライバー講習を修了した若者は、翌日以降効率的に鶴岡観光を楽しむことが出来ます。

（3）合宿免許の実績がある！

鶴岡市には、ペーパードライバー教習に来た外部の若者を受け入れる環境があります。市内の教習所は、長年、自動車合宿免許やペーパードライバー教習を行ってきました。そのため、自動車合宿免許やペーパードライバー教習に対して住民の理解があり、来訪した若者もすぐにコミュニティの中に溶け込むことができると考えられます。自動車教習所を、県外の若者が集まる拠点とすることは、山形県庄内総合支庁が作成した『平成 26 年度庄内総合支庁特命プロジェクト 庄内地域における若者定着促進に向けて（若者定着促進プロジェクト報告書）』にも記載されています。

<プランの対象を大学生のペーパードライバーとした理由>

大学生のペーパードライバー化が進んでいることが挙げられます。東京都内など学生数が多い地域では、学生時代から車を使用しなければならない場面は少ないため、ペーパードライバーが増加しているものと考えられます。しかし、就職後に自動車を運転できることが必要となる場合があるため、時間に余裕のある大学生のうちに次第に運転に慣れ

就職後安心して乗れるようにするために、このプランの対象を大学生に設定しました。また、さらなる利点として、このプランを利用した大学生が「つるたび」や SNS を活用し、同世代の若者に向け鶴岡市の魅力発信することが期待できます。

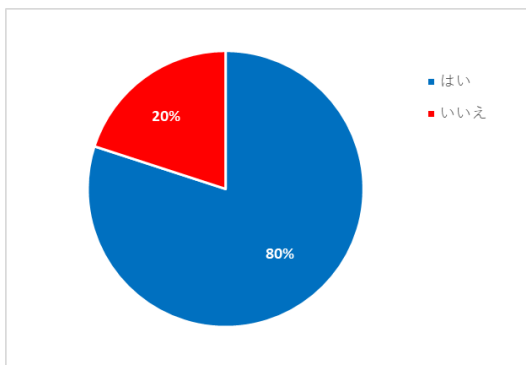
＜大学生へのアンケート結果＞

都心部の学生にペーパードライバーが多いことを確認するために、昭和女子大学（東京都世田谷区）の学生を対象として運転に関するアンケートを行いました。その結果、免許を持つ大学生の約 8 割の学生がペーパードライバーとなっている現状がみてとれます。（図 3） また、ペーパードライバーを対象とする教習があった場合参加したいと思うかの調査では、88 人の回答者の内約 6 割が参加したいと思っていることがわかります。（図 4）

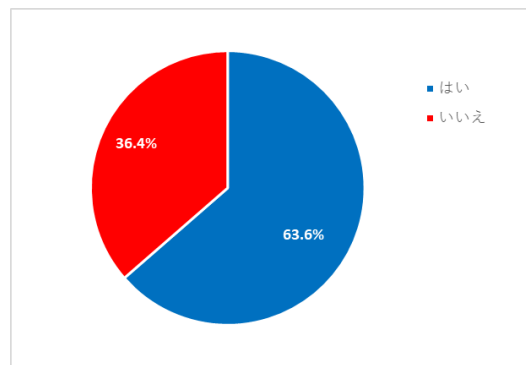
また、どんなペーパードライバー教習に参加したいかを調査したところ、「値段が安い」、「時間を自由に決められる」、「自分に合わせたカリキュラムが決められる」、「教習のついでに、教習所近くの観光ができる」という意見を多くみることができました。

これらの事から、教習と観光を合わせ、自由にプランを作れるようにしました。同時にこのアイデアの料金設定に関しても、昭和女子大学で行ったアンケートの中の、旅行でどれくらいお金が使えるかを参考にしました。（図 6）

また、時期については大学生が参加しやすい夏休み期間中に設定しました。さらに、鶴岡市の月別調査から 9 月に観光客数が減少するため、人の流れが少ない 9 月を中心にこの教習を行うようにしました。



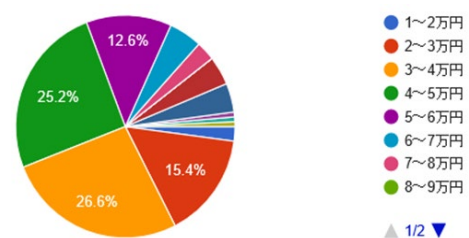
3



4



5



6

昭和女子大学 大学生のペーパードライバーについてのアンケート 回答者数 143人

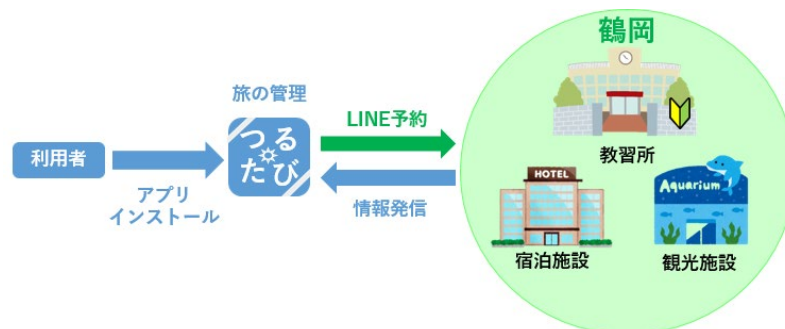
<https://forms.gle/d64LK84iQhw8YVxjC> Google form で作成 回答期間は 2019年 11月中 2週間

(3) アイデア実現までの流れ (公開)

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源 (ヒト、モノ、カネ) の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2 ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

アプリの開発・利用

今回のアイデアを実現するために必要な資源として、新しいアプリの開発と LINE の利用を提案いたします。まず、新しいアプリの名称は「つるおか旅につき (通称:「つるたび」)」。「つるたび」は利用者の鶴岡での観光をサポートする機能と旅の思い出を共有する機能を持ちます。それら機能を使い、利用者自身が自分の旅のプランをコーディネートできるようにします。



具体的な流れ

- ① ポスターを利用し、利用者へ「つるたび」の QR コードを掲示し、インストールしていただきます
- ② 「つるたび」内で各施設の情報を検索し、アプリ内のナビゲーションに従って予約漏れがないように宿泊場所や移動手段の予約を行っていただきます
- ③ ツアー中、他の参加者の口コミをチェック、予約の確認を行っていただきます
- ④ ツアー参加後、アプリ内の記録を見ることで思い出の共有を行っていただきます
誰もが、口コミを閲覧できるようにし、旅の参考にしていただけます

「つるたび」の主な機能



公式アカウント
検索機能



情報発信



口コミ



コミュニティ形成



旅の思い出を共有



- ・公式アカウント検索機能はユーザーにおすすめの観光施設・宿泊施設の LINE 公式アカウントを紹介する (紹介方法は URL や QR コードの友達追加)
- ・情報発信機能では鶴岡のイベント情報や観光モデルプランなどユーザー向けに発信する
- ・旅の記録機能では備忘録や見聞録など、鶴岡市らしい和風デザインで残すことができる
- ・旅の思い出はコミュニティ内で共有し、情報のリレーが行える

鶴岡の店舗と利用者を結びつける

予約申し込みに関しては、LINE 公式アカウントの利用を計画しています。LINE を取り入れる理由は LINE の国内月間利用者は 8100 万人であり、うち 86%が毎日利用しているためです。このように LINE は一般の人々が多く利用しているため、多くの人々に鶴岡を知ってもらえる機会を得ることができます。

- ・LINE 公式アカウントの役割は鶴岡の店舗側と利用者を結びつけることです
- ・LINE 予約は店舗側の負担軽減や電話予約が苦手な若者も手軽に利用できます
- ・クーポン機能やデータ分析などリピーターの促進を行うことができます
- ・「フリープラン」は無料のため店舗が容易に導入できます

アイデア実現のためにご協力いただける団体

- ・鶴岡市役所
人気観光施設加茂水族館の入場料無料やその他市の施設の割引
加茂水族館バックヤード見学（要予約）や一般では参加できない場所
- ・鶴岡市民団体
鶴岡ふうどガイドなどの地域住民からの情報・体験の提供

- ・観光施設の割引は LINE 公式アカウントのクーポン機能を活用する
- ・鶴岡のおすすめ情報もメッセージ配信機能を利用

アイデア実現のために必要な資源

- ・アプリ関連費用（アプリ開発費用・アプリの保守、管理費用・アプリの広報費用）

アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス

内容	2019年	2020年	2021年
アプリ開発		第一次計画（開発・テスト） 第二次計画（設計・開発・テスト）	
地元や店舗への協力依頼		定期的な情報による情報やアイデアのシェア・フィードバック LINE公式アカウント作成依頼	システム連携や稼働状況等のデータ連携
イベント一覧の作成	プロトタイプ制作	地元の方と情報共有・練り直し	
教習所へスケジュール管理			教習の予約・登録
予約状況の確認			予約の確認・登録

実現に至るまでの課題

- ・サーバーの維持管理費用
→広告をアプリ内に掲示し、広告費でまかなう。または、協賛が可能な企業を募り、サーバーを共同で使用します
- ・鶴岡の店舗や観光施設に LINE 公式アカウントのアプリを導入してもらう必要があります
→鶴岡市の店舗や観光施設にメリットを説明し、導入を促します。
- ・新アプリ内から各施設の公式ラインアカウントに飛び予約を行う場合、多少の手間がかかる、また宿や鶴岡市までの移動手段が満室または満員であり、予約できないという問題が起こる可能性があります
→庄内地域にある旅行代理店や LINE の協力を得て、予約を一括で行えるようにします

